

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・Ⅰ 人間のとらえる因果関係は「物語り」と関連しており、その「物語り」によって、自らの行為の結果に責任をとるといふ人間の「アイデンティティ」とも言える特質が成り立っていることを論じた評論。本文の長さは前年度とほぼ同じ。漢字問題が出題されず、記述問題の設問数は4問。解答欄はすべて3.5cm幅。
- ・Ⅱ 息子を亡くした母が、一時期架空の犬を飼っていたことについて、母亡き後に主人公が回想する小説。本文は1ページほど増加したが、設問数は前年度と同様4問。表現効果を問う問題が本年度も出題された。解答欄はすべて3.5cm幅。

<本文分析>

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出典 (作者)	「ホモ・ナランズ (homo narrans) の可能性」 (野家啓一)	「母の散歩」 (坂崎かおる)
頻出度合・的中等	なし	なし
分量 前年比較	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
難易 前年比較	易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化	易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅰ	評論	問一	記述式	標準	「物語り的因果性」と「科学的説明」との違いを説明する。(3.5cm幅) 「個人の行為」が因果概念の「プロトタイプ」であることがわかるように、傍線部を説明する。(3.5cm幅) 「過去」の行為の「責任」に「物語り」がどのように関連するのかを説明する。(3.5cm幅) 本文の趣旨を踏まえ、「人間のアイデンティティ」の在処である「物語る」ことを説明する。(3.5cm幅)
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	
Ⅱ	小説	問一	記述式	標準	傍線部の理由説明。「瞳を揺らしながら」という表現に注目しながら説明する。(3.5cm幅) 「佐知子」が「そうなんだ」と言うのをやめた理由を、直前の母の言動を踏まえつつ説明する。(3.5cm幅) 傍線部の理由説明。母の遺骨とネクタイとの関わりに留意する。(3.5cm幅) 傍線部の表現効果の説明。「臍脂のしっほ」が表すものの意味を本文全体を踏まえて考える。(3.5cm幅)
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・Ⅰの評論では、意味段落の論旨を正確に把握した上で全体の主題を捉えられるよう、文脈を的確に読み解き、論理的に正確な説明をする練習を積み重ねたい。念のため、漢字の書き取りも練習しておこう。
- ・Ⅱの小説では、人物の心情を叙述に基づいて正確に読み取り、わかりやすく表現する練習を着実に積み重ねる必要があり、そのためにも語彙を豊かなものにしておきたい。表現効果に関わる設問、作品の鍵となるものに関わる設問についても、解答の基本的な構成を習得しておきたい。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・文学部の入試問題として、室町時代物語(御伽草子)が出題されるのは過去十年で初めて。ただし、類似文種で説話からの出題がしばしばあるので、さほどめずらしい出典ではない。
- ・設問構成はほぼ例年どおり。例年よく出題される短語句の意味を問う設問は前年度にひき続き今年もなかった。
- ・例年よく出題される和歌の設問があった。今年度は文脈展開をふまえた説明問題だった。
- ・例年よく出題される文章全体の主旨をふまえた内容説明はなかった。

<本文分析>

大問番号	Ⅲ
出典 (作者)	『鴉鷺物語』 (未詳)
頻出度合 ・的中等	作品は稀。的中なし。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1100字 (昨年1200字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅲ	室町時代物語 (御伽草子)	問一	記述式	標準	現代語訳。傍線二箇所。「文脈に即してわかりやすく」や指示語の具体化・動作の主体と対象の補充などの指示がある。着眼点となる重要語句等は、「だに」「思ひやむ」「玉梓」。
		問二	記述式	標準	内容説明。登場人物のやりとりを文脈展開をふまえて具体的に説明する。
		問三	記述式	標準	内容説明。登場人物の行為と意図について傍線部に至るまでの文脈をふまえて具体的に説明する。
		問四	記述式	標準	内容説明。設問に示された参考歌をふまえて、登場人物の心情を説明する。傍線部に含まれる「みるめ」の意味を参考歌から具体化して説明するところが重要。
		問五	記述式	標準	内容説明。贈答歌のうち答歌の下句を説明する。その際、贈歌で表された内容もともに説明する必要がある。「音に(のみ)きく」の慣用句、また「露」が涙を意味する点などの理解が重要。
		問六	記述式	やや難	内容説明。読者に対する表現効果のねらいを説明する。散文中に用いられた掛詞による修辞とそれによる表現効果を説明する。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行うこと。
- ・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。
- ・例年の傾向から、和歌について、修辞の指摘や説明問題をも意識した解釈の演習も必要である。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題・漢文 1題

試験時間

120分

後漢の邯鄲淳によって編纂された笑話集の元祖『笑林』からの出題。ある人が鳳凰の偽物を大枚をはたいて購入し、楚王に献上しようとしたが、鳥が死んで残念がっていることが楚王に伝わり、そのことに感心した楚王が莫大な褒美を与えたという話。内容は読み取りやすい。本文の字数は昨年よりやや減少した。設問数は昨年と同じく5問、枝問はない。現代語訳は3問、理由説明の説明問題が1問で、現代語訳が1問増加、説明問題が1問減少した。書き下し文の問題は1問。昨年度と同様に「現代仮名遣いでもよい」というただし書きがある。

<本文分析>

大問番号	Ⅳ
出典 (作者)	後漢・邯鄲淳『笑林』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・ <u>やや減少</u> ・変化なし・やや増加・増加) (昨年) 152字→(今年)133字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <u>変化なし</u> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅳ	小説	問一	記述式	標準	現代語訳の問題。推測「～乎」の用法。「久」意味に注意。
		問二	記述式	標準	現代語訳の問題。再読文字「将」の用法。
		問三	記述式	標準	現代語訳の問題。再読文字「宜」の用法。「以為」「献」主語の明示。
		問四	記述式	やや易	書き下し文の問題。二重否定「無不～」の用法。
		問五	記述式	やや難	理由説明の問題。偽物の鳳凰に大金を投じたり、単なる噂に基づいて莫大な褒美を与えたことに対して、識者が笑ったことを押さえる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要語句・慣用句や基本句形の知識に習熟し、比喻や具体例の提示などの修辞法にも慣れておく必要がある。本文を単に直訳するだけでなく、論の展開や筆者の意図を考えながら読む読解力が必要なので、問題集などを利用して読解の訓練を積んでおくこと。中国の歴史、思想、文化に関する知識も身につけておく必要がある。